

デング熱国内感染事例 疫学情報

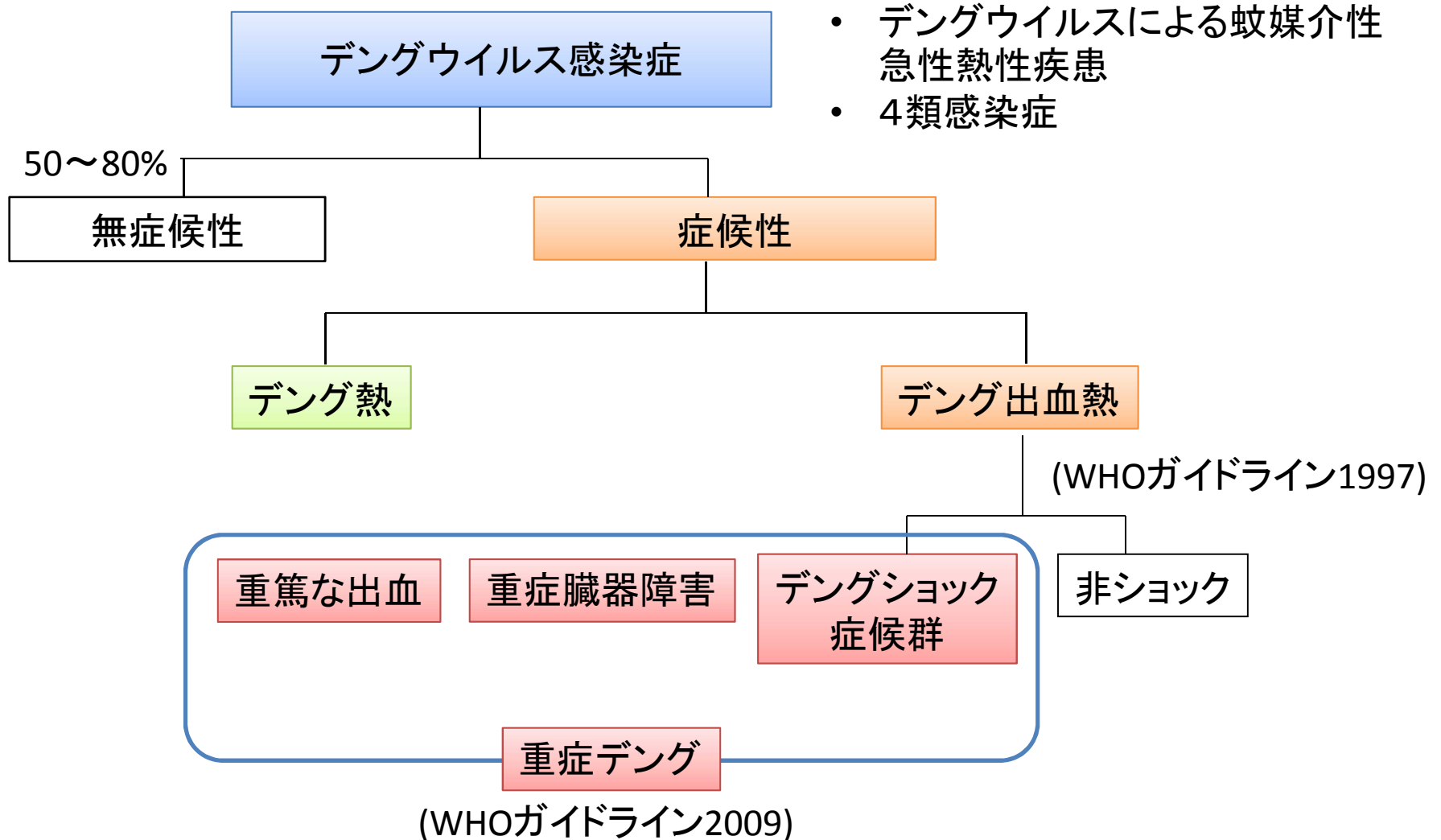
国立感染症研究所
感染症疫学センター

目次

1. デング熱とは？
2. ドイツ人デング熱症例の探知と「デング熱国内感染事例発生時の対応・対策の手引き」の作成
3. デング熱国内感染症例の疫学情報
4. まとめと課題

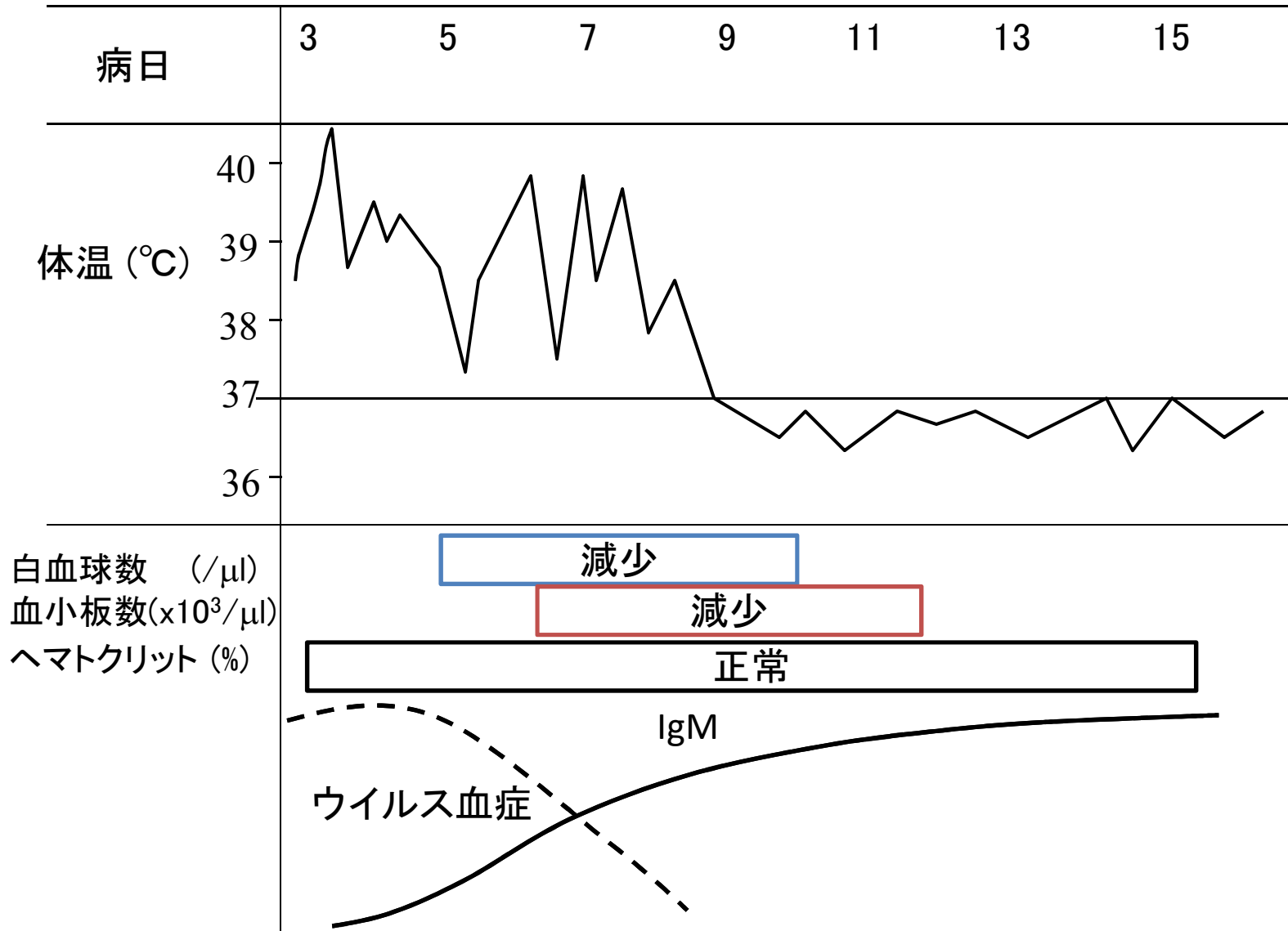
1. デング熱とは？

病型分類



- デングウイルスによる蚊媒介性急性熱性疾患
- 4類感染症

典型的なデング熱症例の経過



2. ドイツ人デング熱症例の探知と 「デング熱国内感染事例発生時の 対応・対策の手引き」の作成

日本での感染が疑われたドイツ人デング熱症例

2013年9月発生、2014年1月報告

51歳女性、生来健康

日本国内旅行*	day-15	8/19	成田着(フランクフルトからの直行便)
	day-15~-13	8/19~21	上田(長野)
	day-13~-10	8/21~24	笛吹(山梨)
	day-10~-9	8/24~25	広島
	day-9~-6	8/25~28	京都
	day-6~-3	8/28~31	東京
	day-3	8/31	成田発(フランクフルトへの直行便)



発症後経過	day 0	9/3	発熱(最高体温40°C)・嘔気→紅斑丘疹性発疹を伴う
	day 6	9/9	ベルリンの医療機関に入院 IgG (IFA): 1:20,480 (陽性), IgM (IFA): 1:320 (陽性) NS1 抗原(ELISA): 陽性, RT-PCR: 陰性 中和試験: デングウイルス2型の感染

Eurosurveillance 論文における結論: 症例の行動歴や潜伏期(3-14日)を考えると、笛吹でのブドウ狩り中に感染した(複数回蚊に刺されたという本人の訴えあり)可能性が最も高いが成田空港やその他の場所での感染も否定できない。

「デング熱国内感染事例発生時の 対応・対策の手引き」: 疫学調査のポイント

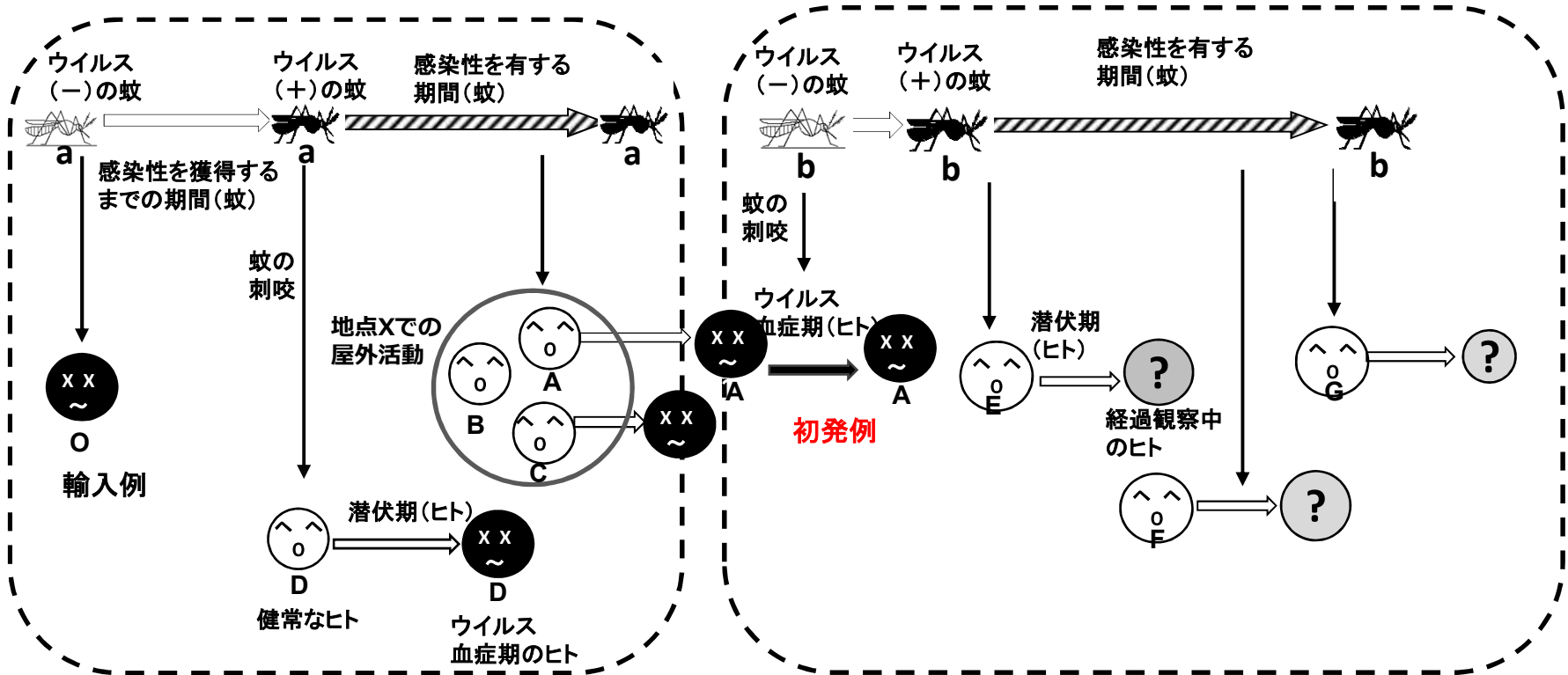
- 推定感染地の絞り込み
 - 潜伏期内(発症前3～7日)の症例の屋外活動歴
 - 症例の屋外活動の同行者や同居家族の発症の有無
 - 探知された他の症例の行動歴との照合
- 感染拡大リスクの評価
 - 推定感染場所(絞り込めた場合)の状況確認:
媒介蚊の密度等
 - ウイルス血症時期(発症前1日～後5日目)の症例の行動歴・蚊の刺咬歴

デング熱国内発生 of 想定例

症例Aの推定感染地
(地点X)

時間経過

症例Aに由来する感染拡大の可能性がある地域 (地点Y)

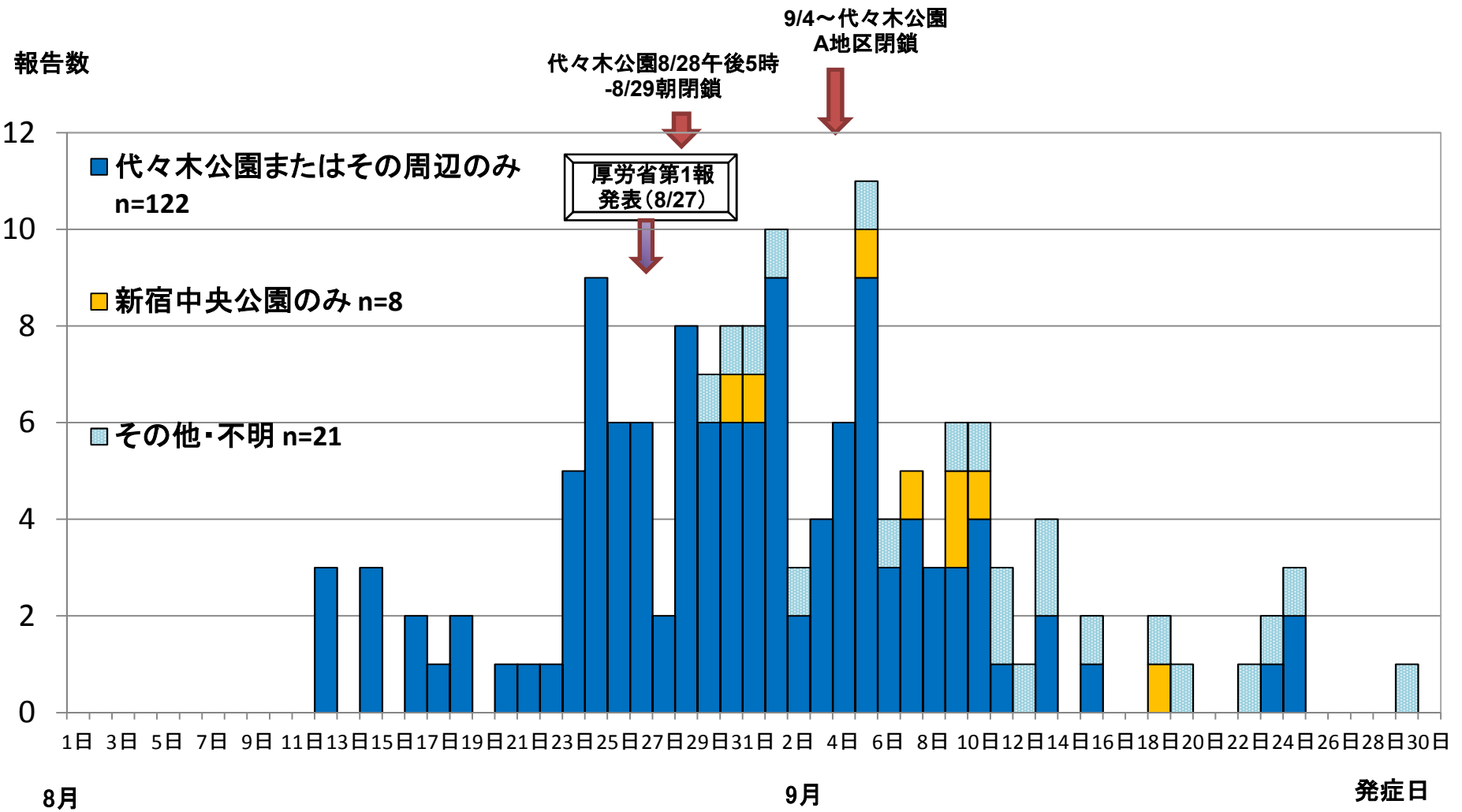


地点Xの例) 代々木公園

地点Yの例) 症例の立ち寄り先

3. デング熱国内感染症例の 疫学情報 (2014年10月6日11時現在)

発症日別報告数 (発症日不明の4例を除く151例)



【厚生労働省発表(2014年10月6日11時現在)に基づく。】

その他の疫学情報 (n=155)

年齢群及び性別

年齢階級	男性	女性	計
10歳未満	4	1	5
10代	14	16	30
20代	27	26	53
30代	11	7	18
40代	12	11	23
50代	11	2	13
60代	8	0	8
70代	4	1	5
計	91	64	155

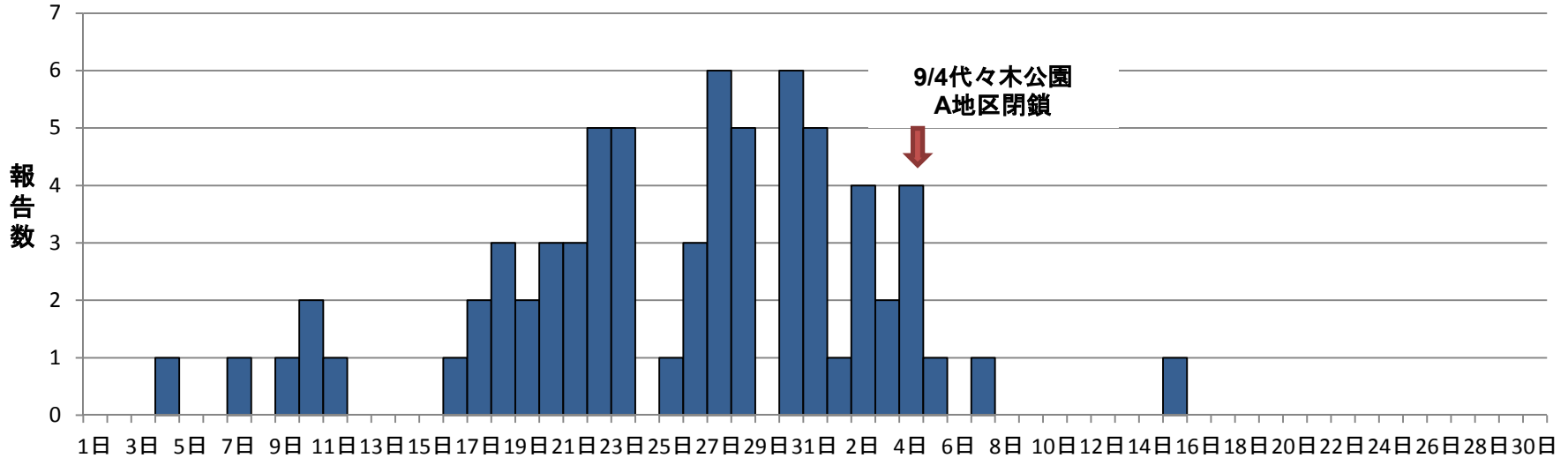
居住地

都道府県名	症例数
東京都	102
埼玉県	14
神奈川県	12
千葉県	7
新潟県	3
大阪府	3
茨城県	2
山梨県	2
静岡県	2
北海道	1
青森県	1
岩手県	1
秋田県	1
群馬県	1
山口県	1
愛媛県	1
高知県	1
計	155

推定曝露日別報告数

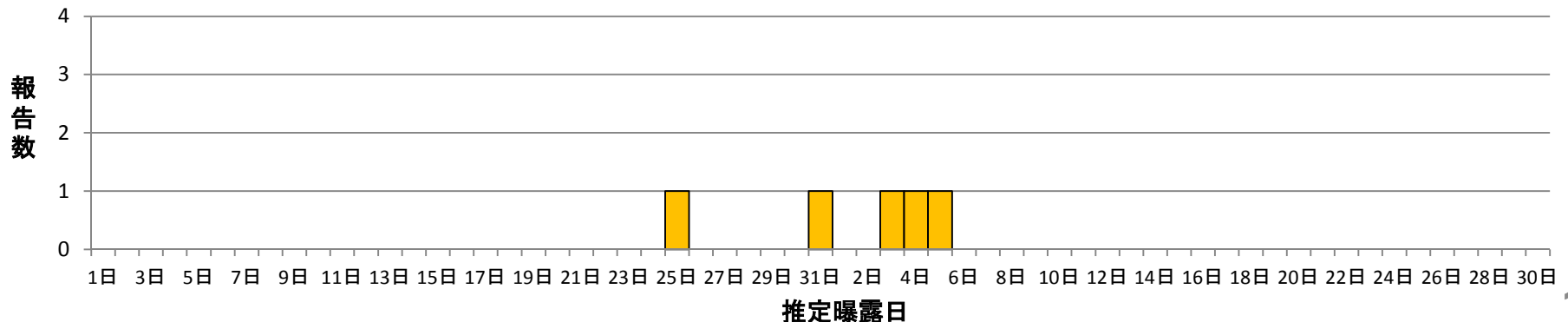
(2014年8月1日－9月30日)

代々木公園または周辺のみ
(n=70<122例中、曝露日が1日だけの症例のみ>>)



新宿中央公園のみ (n=5 <同8例中>)

推定曝露日

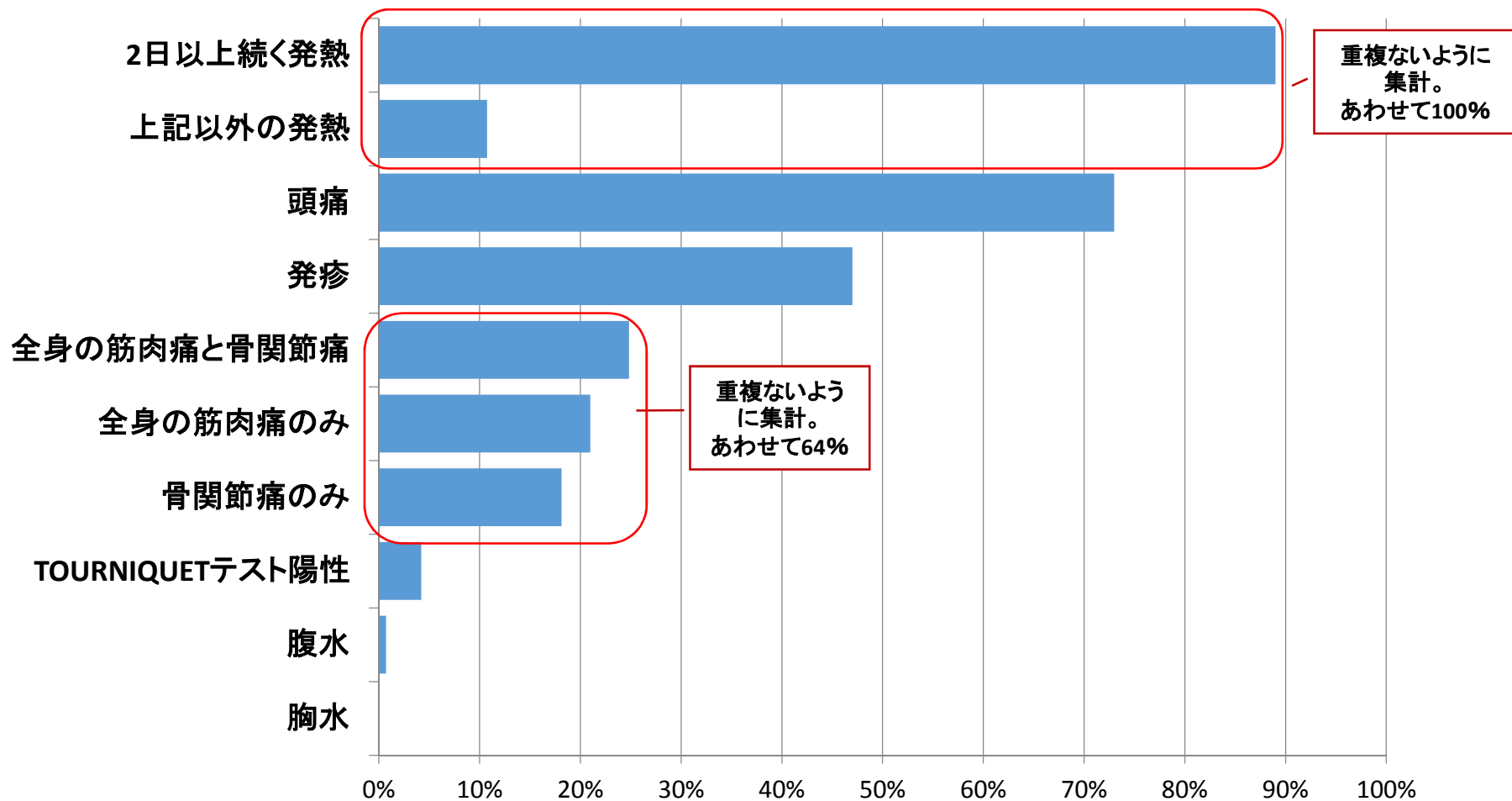


計75例のうち、発症日のわかる72症例から算出した潜伏期: 中央値6日(範囲2-13日)

【厚生労働省発表(2014年10月6日11時現在)に基づく。】

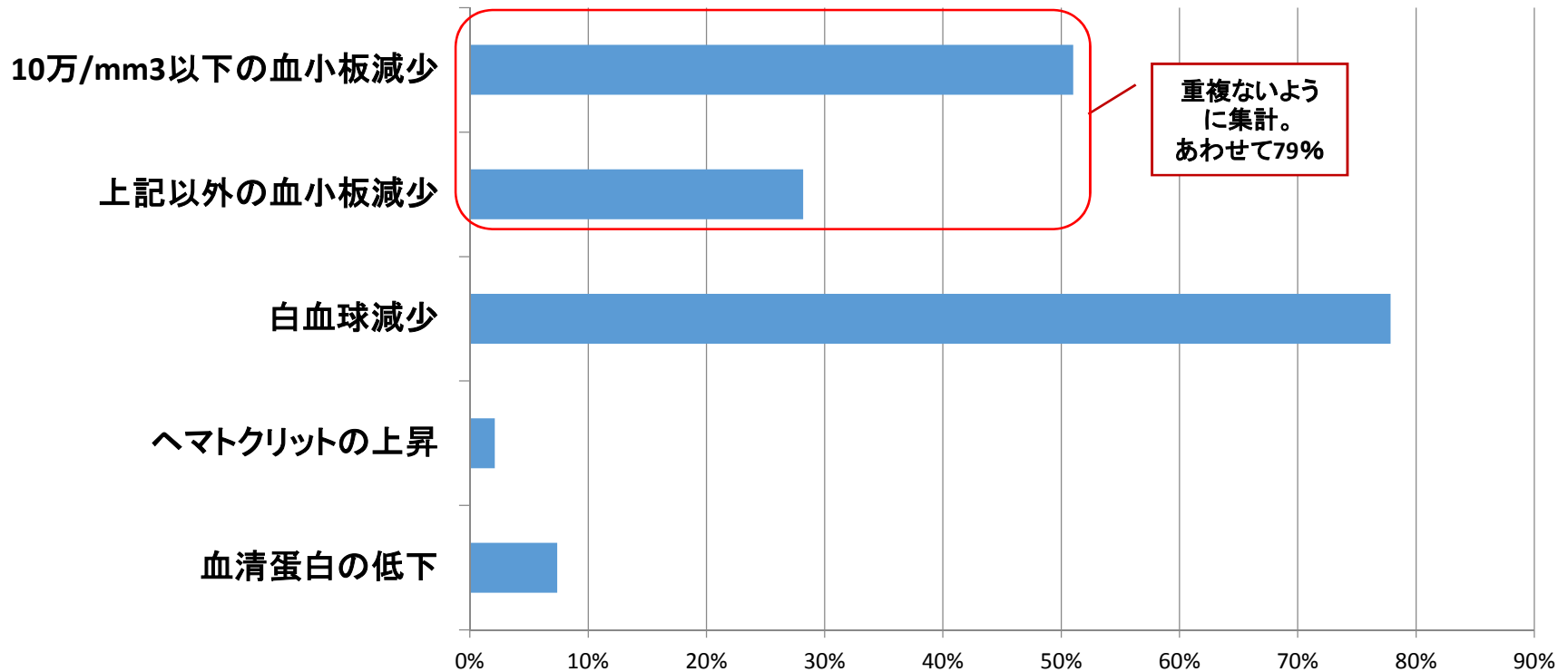
臨床症状*のまとめ (複数回答あり。n=149)

*届出票の項目



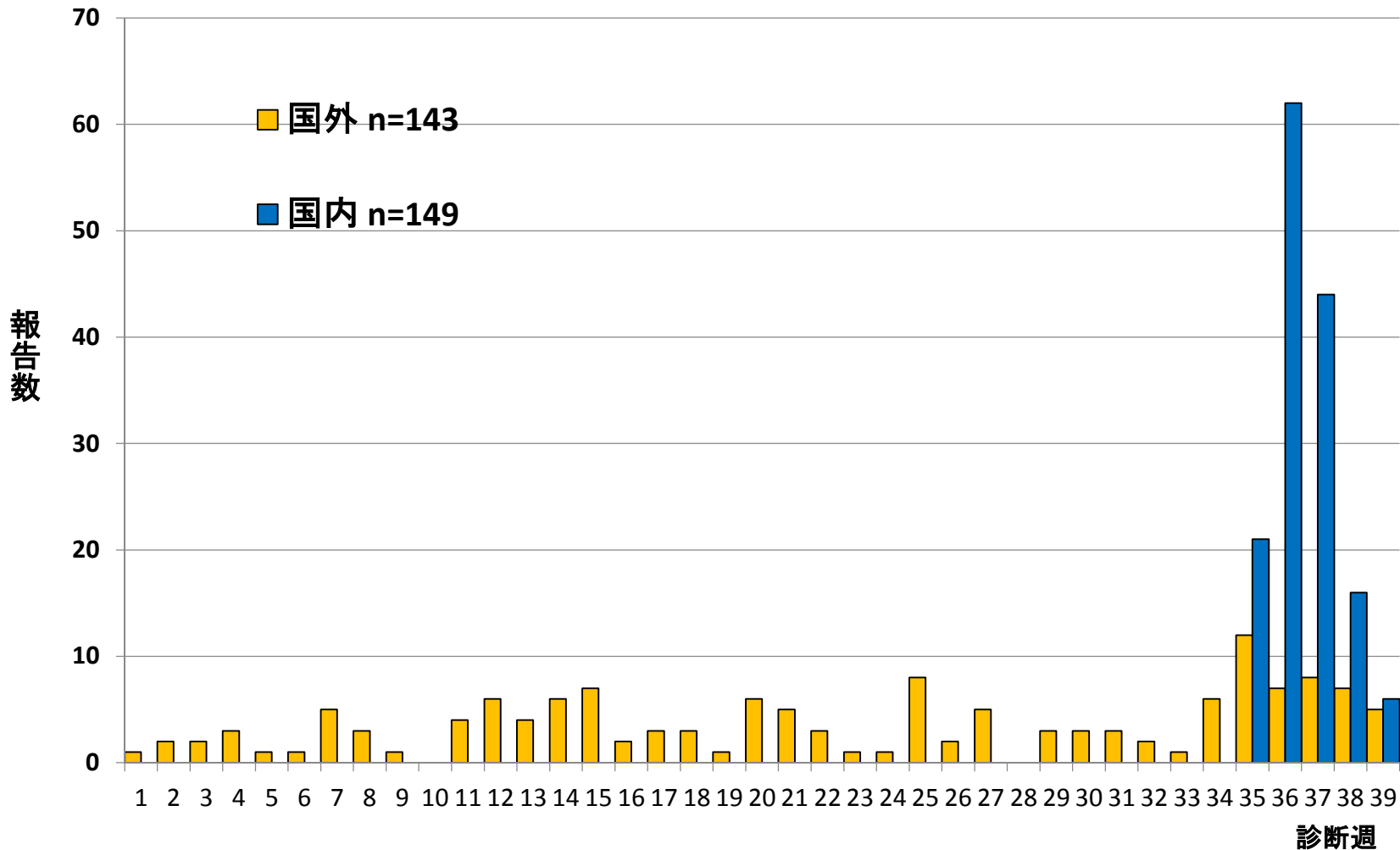
検査所見*のまとめ (複数回答あり。n=149)

*届出票の項目



デング出血熱(届出基準: 2~7日持続する発熱、血管透過性の亢進、10万/mm³以下の血小板減少、出血傾向の4つ全てを満たす症例)が1例報告されたが、WHOガイドライン(2009年)による「重症デング」ではない。

参考) 感染地別診断週別報告数 (2014年第1~39週、n=292)



4. まとめと課題

まとめ

- ドイツ人事例の発生をうけて、対応についての準備を進めている中での事例の発生であった
- 代々木公園およびその周辺という限られた地域で短期間に多数の症例の集積が見られ、ヒトスジシマカを主媒介蚊とする地域においては稀な事例であった
- 代々木公園関連の症例はピークを越えたが推定感染地不明の事例報告が東京都等から継続している
- WHOガイドライン(2009年)による「重症デング」の症例は国内感染事例では探知されていない

疫学調査の課題と対応（予定）

- 代々木公園およびその周辺地域における感染リスク要因の検討→単回曝露の症例等についての活動内容（時間帯・場所）の追加調査を予定
- 推定感染地の絞り込み・感染拡大の評価の手法の検討→自治体による行動歴調査の現状の情報収集を予定
- 輸入症例に対する対応との整合性についての検討